

課題名 47. カンキツの品種系統、経営方式による労働投入係数について

成果の要約

- カンキツ専作経営における品種系統別作業労働は211.6～413.7時間/10aの開差があり、労働集約度は極早生>早生>伊予柑>普通の順である。作業別には、ミカンが収穫調整>選別出荷>摘果>防除、伊予柑が収穫調整>貯蔵管理>選別出荷>防除>整枝せん定で、時期別ではいずれも10～12月に集中している。極早生は摘果、収穫調整、整枝せん定、防除等に労働力が多投されているが、摘果、収穫の分割性や高接後の周到な管理によるものである。これらの品種系統、時期別の序列性は生産規模、園地条件等とともに、経営者の判断により異なる。
- 施設栽培の早生ミカンの作業労働は1,003時間/10aで、時期別、作業別には8月下旬収穫・出荷労働が84時間/10aのピークを形成している。
- マーコットは高接後1～4年で高接後の集約管理を反映して、労働係数としては未知数な部分が多い。
- 水稲、野菜との複合経営下におけるミカン部門の作業労働は184時間/10aで、作業別には収穫調整>選別出荷>摘果>防除>中耕除草である。

カンキツ経営の労働係数

		専 作					複 合			
		極早生	早 生	普 通	伊予柑	ミカン	施設栽培			
年 計		413.7	342.9	211.6	257.3	184.0	マーコット	早 生		
月 別	10月	128.6	61.4	1.7	5.0	10.0	2月	154.7	77.8	
	11	0.6	157.2	26.3	4.1	27.8	3	90.0	31.9	
	12	—	—	89.1	95.0	41.5	8	10.0	160.0	
作 業 別 割 合	整枝せん定	13.0	3.1	7.0	8.0	6.3	9	14.7	94.4	
	施 肥	2.1	4.2	1.7	4.0	2.2	11	22.7	104.1	
	防 除	15.9	6.4	8.0	9.4	10.6	12	14.0	195.9	
	摘 果	26.2	13.1	8.6	4.9	11.2	作業別割合	温度水管理	19.2	6.0
	収 穫 調 整	19.1	44.7	39.6	25.5	29.9		ビニール被覆	17.1	17.7
	貯 蔵 管 理	4.8	2.6	1.9	14.6	16.8		収 穫 出 荷	12.1	25.8
	選 別 出 荷	7.2	15.7	24.6	11.4	10.3		摘 果	4.0	10.5
生産規模 (a)		31	56	121	16	162	生産規模 (a)		15	32

(長崎県総合農林試験場)

普及上の留意点

カンキツ経営の設計に当たっては、技術係数の中の労働係数が重要な決定要因となり、経営組織等調査データの性格を十分に吟味して利用する必要がある。